

名古屋大学教育学部 2008年度 後期
教育方法学講義I
- 教育方法概論 -
第9回 講義資料 W
担当 柴田好章 (教育方法学・准教授)

学ぶ立場から教える立場へ(1) — 模擬授業の計画 —

1 実現したい価値を共有しよう

(個人)

- ・ 第2回の課題 (実現したい授業) を思い出してください。
- ・ この模擬授業の中で、大切にしたいことを確認してください。

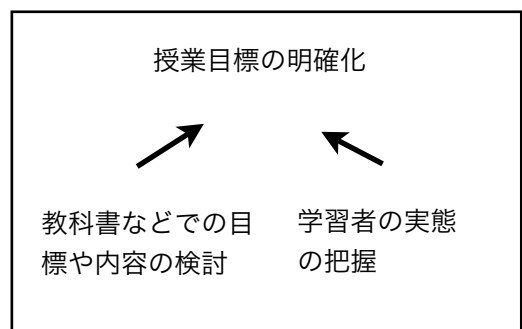
(グループ)

- ・ 理想とする授業像を語り合ってください。
- ・ この模擬授業の中で、大切にしたいことを確認してください。

2 模擬授業の目標を定めよう

テーマ (何について)

学習者の想定 (どういう対象を相手に)



授業目標 (何をどこまで)

3 学習内容を構造化して、スライドの構成を考えよう（作成途中で変更してかまいません）

- 学習内容の構造化
- 教材研究（教材開発, 教材解釈）
- 主たる発問、説明、指示の内容の具体化
- 予想される学習者の反応の想起
- 学習者の反応等に応じた計画の複線化
- 授業案の作成（授業展開の具体化）

目標の要約	
スライド1	
スライド2	
スライド3	
スライド4	
スライド5	
スライド6	
スライド7	

構造図

目 標

可能な系列

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____
- ⑤ _____
- ⑥ _____

(例)

テーマ 分母の違う分数の足し算

想定する学習者 分母が同じ分数の足し算はできる小学生。通分の仕方、最小公倍数の調べ方は未習。

目標 分母の違う分数の足し算ができるようになる。ただし、今回は、約分が必要ない場合のみを問題とする。正しく計算ができると共に、計算の方法の必要性を理解させる。なぜ、通分が必要であるか、通分のために最小公倍数を見つけることのよさを理解させる。

目標の要約 分母の違う分数の足し算（約分不要）

スライド1 異分母の足し算の典型的な間違い（分母どうし・分母どうしを足す場合）

スライド2 同分母の分数の足し算の復習

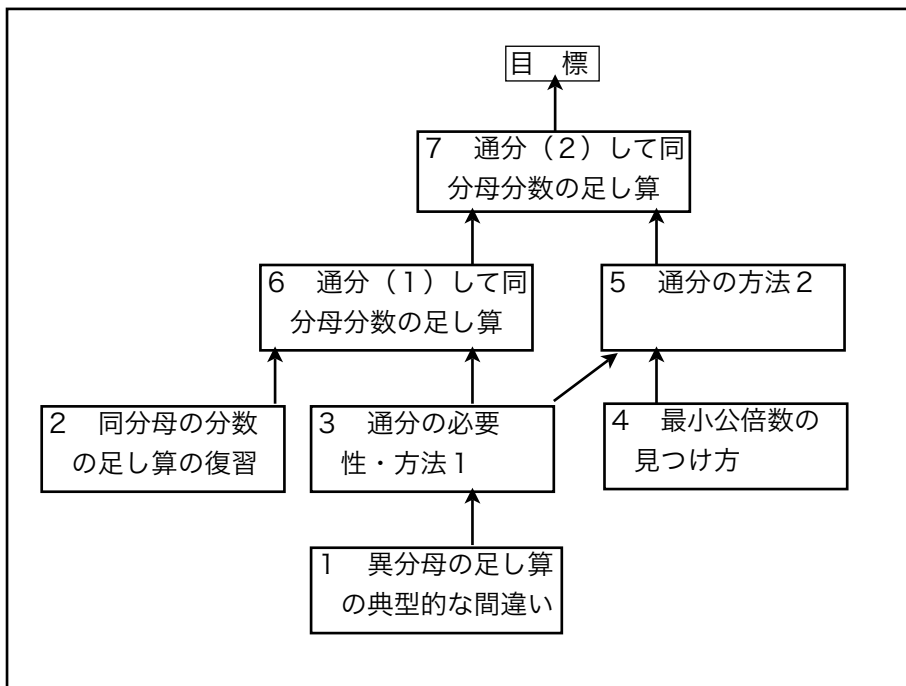
スライド3 通分の必要性・方法1（最小公倍数にこだわらない）

スライド4 最小公倍数の調べ方

スライド5 通分の方法2（最小公倍数で通分）

スライド6 通分（1）して同分母分数の足し算

スライド7 通分（2）して同分母分数の足し算



- 1 → 2 → 3 → 6 → 4 → 5 → 7
- 1 → 3 → 2 → 6 → 4 → 5 → 7
- 2 → 1 → 3 → 6 → 4 → 5 → 7
- 4 → 1 → 2 → 3 → 6 → 4 → 5 → 7
- ： ： ：

どの系列がよいだろうか？



5 スライドの作成

- 何を絵で描くか、何を文字で書くか、何を口頭で説明するか、意識して切り分けること。
- 文字ばかりのスライドは、読みにくい。読みたくなる気になりにくい。

- ×読みにくいスライド
 - ・文字ばかりプレゼンテーション
- 読みやすいスライド
 - ・キーワードのみの表示
 - ・ブロック化したテキスト

プレゼンテーションを行うときには、文字ばかりのスライドは読みにくいために、キーワードのみを表示したり、ブロック化したテキストを用いるなど工夫するとよい。

- 短い言葉や絵は効果的。しかし、コンテキストに注意が必要。

6 効果的なプレゼンテーションの技法

手書き+書画カメラで行う場合		プレゼンテーション・ソフトを使う場合	
○	マスキングにより、意図的に情報を隠す	○	アニメーションの効果を使う
○	書画カメラのズーム機能	△	オブジェクト（文字・図形）の移動・拡大
×	（該当機能なし）	○	Webページ、他のファイルへのリンク
○	質問に応じて順序を入れ替える	△	提示しながら順序を変更するのは困難

4 教材作成・模擬授業実習でのポイント

教材作成実習

1	テーマ	何について学ぶか、教えるか
2	予想される学習者の実態	どういう学習者に教えるか？知識、技能、関心
3	目標の明確化	何を学ばせるか、教えるか、考えさせるか
4	学習内容の構造化	図で表してみよう
5	スライドの構成	各スライドの内容と順序
6	絵と、文字と、口頭の区別	何を絵で、何を文字で書くか
7	関心を呼び起こす工夫	指導者の個性を発揮して、...
8	考えさせる工夫	一方的な指導にならないために、...